

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

### 事業名 研究開発機器等設備整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,425 千円 (前年度予算額：7,266 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,266	0	0	0	0	0	0	0	7,266
要求額	7,425	0	0	0	0	0	0	0	7,425
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林研究所においては、「健全で豊かな森林づくりの推進」、「林業及び木材産業の振興」を支援する研究開発に取り組んでいるが、研究機器等の老朽化や能力不足のため、業界や行政からの要望や課題等に十分応えることが困難となってきた。

県内産業に「役立つ研究開発と質の高い技術支援」を提供するため、先端的研究の実施に必要となる研究関連施設の整備を行う。

### (2) 事業内容

○恒温恒湿器（更新） 1台

#### 【要求理由】

様々な樹種や材質の木材を、試験体サイズ（長さ50～70cm程度）に加工し、当装置の中で、乾燥の予備試験を行う。熱による木材の損傷の程度や乾燥速度を測定し、実大材のサイズ（長さ4m程度）で行う本試験での温度湿度条件や処理時間を決定するためのデータを得る。

現在実施している研究課題では、スギ心去り平角材の人工乾燥中に「中間蒸煮」を行うことで、材の内部の割れが大きく低減できることを確認している。「中間蒸煮」の適正なタイミングや処理時間については不明な点が多いため、本装置を使うことにより、乾燥スケジュール開発を効率的に推進する。

隣接する森林文化アカデミーで保有する恒温恒湿器は、取得から約30年経過しており、使用不能・修繕不能な状態となっている。

### 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	7,425	恒温恒湿器 7,425千円
合計	7,425	

#### 決定額の考え方

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

先端的研究を行うために必要となる研究関連施設等の整備により、研究業務の充実・停滞防止を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

### ○指標を設定することができない場合の理由

研究所における研究業務の効率化・合理化を図るための施設整備等を行う事業であるため、指標の設定は困難である。

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	キノコ個別培養制御装置、生物顕微鏡システム、光量子測定装置を購入した。 老朽化した機器の更新や、研究に必要な機器の新規導入により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。
令和3年度	微量高速冷却遠心機、生物実体顕微鏡、赤外線サーモグラフィカメラ、クリーンベンチを購入した。 老朽化した機器の更新や、研究に必要な機器の新規導入により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	バイオクリーンベンチ、小型凍結乾燥機、真空オーブン、GNSS(衛星測位システム) 機器を購入した。 老朽化した機器の更新や、研究に必要な機器の新規導入により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>事業の必要性</b> (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</li> </ul>	
(評価) 3	研究の効率化・高度化や企業等が求める研究を推進するため、研究機器や施設の整備は必須の事業である。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>事業の有効性</b> (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) 2	研究機器や施設を整備することで、企業や県民が求める研究が効率的に推進できており、事業の有効性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>事業の効率性</b> (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</li> </ul>	
(評価) 1	先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実に関しては、整備の緊急性や必要性等を総合的に判断し、優先順位を付けたうえで効率的に整備している。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> 研究所の研究施設等は老朽化しているものが多く、整備には多額の費用が必要となることから、予算が不足することが課題である。</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 着実に研究成果を上げ、研究業務に支障を来さないようにするためには、継続的な研究機器の整備が必要である。</li> </ul>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	